

土砂災害について学んだこと

みやぎけんいしのまさし宮城県石巻市立河南東中学校

さんねん三年 きたせわ北澤 おとが乙華

令和元年に発生した台風十九号では、宮城県は多くの被害を受けたことを覚えていきます。台風が上陸する夕方は、テレビやラジオなどで、土砂崩れや浸水、大雨のことについての放送が多くやっていた。その時私は、もし土砂崩れとかになつたらどうしようとして不安でした。なぜなら、私の家は、山の麓

にあるからです。親から聞いていたが、宮城県沖地震の時や東日本大震災の時に、家の裏にある炭鉱の掘り出した後の場所の山の斜面から地震直後、水が大量に吹き出し、物が置が浸水していくほど水が吹き出した。そこで、常に水が流れていて雨が降ると、親は心配して、裏に大きな水たまりを作つてしまふと、山から流れてきた水がたまつてしまふ、家が床下浸水や土砂崩れになつてしまふので、雨の中水がヌルヌルに流

水のようにするたために何度も外へ行って水の  
排水がうまく行くようにしていただきました。もし、  
家の裏の山が崩れて来たら避難するしかなが  
ったので、避難準備をしました。夜になるほ  
ど、雨が強くなつていき不安が増しました。  
寝る時間になり、布団に入りました。多く  
の雨や雷の音によつて寝つくことができません  
でした。雨の音が激しくなるたびにどんどん  
不安になつたことを今でも覚えています。夜  
中には、地域の広報が鳴り、避難指示がま  
したが、私の家では高齢者もいた。ので簡単に  
避難することではできません。後で親に  
聞いてみると、あの雨の中車椅子を押して避  
難は難しいと思ひ、避難をするのを諦めた  
そうです。あの雨では私も歩くのも大変  
なのに、車椅子を押して車まで歩くのは大変  
だろうなと思ひました。でも、私は本当に家  
の裏の山が崩れてこないか心配でした。台風  
で近所の家の崖が少し崩れてしまいました。  
土砂崩れがいつ崩れたかはわかりませんが、

地鳴りが聞こえたことを覚えています。土砂災害の被害は、それほど大きくはありませんでした。が、地域の人が集まり、重機などを借り、土砂が流れたところを取って、いたところを見たら、記憶があります。被害はなかなか、たけほど、片付けがとて大変そうだと感じました。その時私は、自分の家の裏の山はなぜ崩れなかったのか、疑問に思いました。親に聞いたことによると、家の裏の山には、多くの竹が生えていたり、木などがたくさんあることが、根が伸びて、崩れない働きがあること、を教えてくださいました。

近所の人も、私が生まれる前に大雨で土砂崩れが起きた。家の中に土砂が入り、命が危なかった。たもうです。その話を聞いた時、家も危ない。なんだ。なと思いましたが、大雨の時は危険なのだ。たとう意識が高まりました。こわより一層私の心配を膨らませたのだと思いました。災害が起きた後、祖父や祖母が土砂崩れの後

片付けを手伝いに行。たそうです。私は、祖母  
父も祖母おたいに地域に貢献できるような大  
人になりたいです。地域の人達もたくさん片  
付けの手伝いに行。たそうです。地域の絆や  
田舎の良さを大切にしたいと思います。他に  
も、地域で土砂崩れが起り、家に土砂が入り  
命が危なかつた家があるそうです。  
私は前に、大雨が降って土砂崩れになつた  
時のことを、地域の人に聞いたことがありま  
す。地域の人は山の中に住んでいて、大雨が  
降るたりすると土砂がすぐ流れてくるところ  
に住んでいました。住んでいた当時は、土砂  
崩れになると多くの土のう袋に土を入れて土  
砂が家に流れてこないように、地域の人と土の  
う袋をならべていました。そのおかげで家を  
土砂崩れから家を守つたそうです。その後、  
下に引越してきました。  
住んでいた時は、とても怖がった。でも、  
今は安心して暮らすことが出来るし、地域の  
人にとっても感謝していらるし

と言っていました。

このことから私は、土砂災害はとても怖いし、最近では、ゲリラ豪雨や短時間大雨情報などが出たり、大雨特別警報が出たりと、前触れがあったらすぐに避難しようと思いました。また、ニュースなどで土砂崩れに巻き込まれて行方不明になった話を聞くと悲しくなります。早く見つけられますように願っています。雨雲レーダーなどをよく見て、命を守りたいと思います。自然の物を利用して、土砂災害を防ぐことができるとも思います。自然の物を大切にしていこうと思いましたが、地域の人手ともコミュニケーションをとり、困った時には、助け合いをしていきたいと思います。しました。